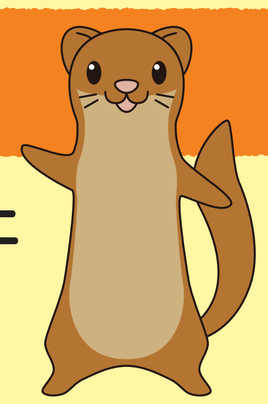
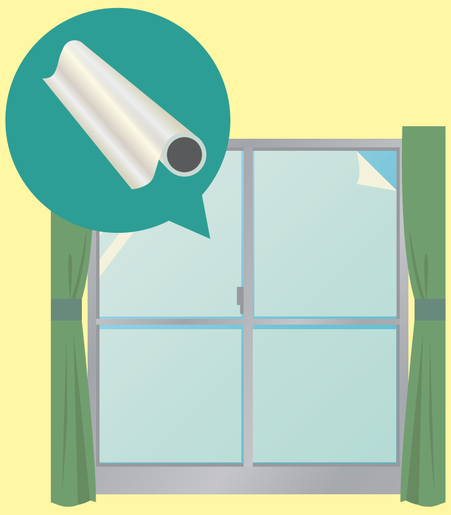
ペット防災は日頃からの備えが大事！

住まいの防災対策



栄区 いたち川マスコット
タッチーくん

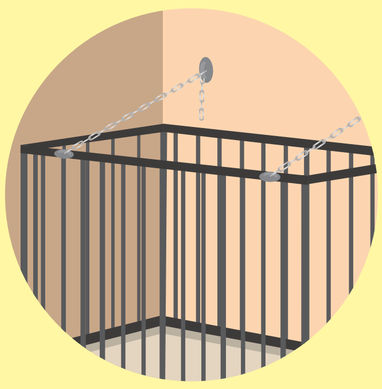
ペットのケージの転倒防止対策等のほか、家具転倒防止器具やガラス飛散防止フィルムなどを設置し、住まいを災害に強くしておくことが重要です。
ペットを守るには飼い主が無事であることが第一です。



□窓やガラス戸にガラス飛散防止フィルムを貼る

□金具やツッパリ棒など家具転倒防止器具を取り付ける

□食器等が飛び出さないように戸棚の扉に留め具を付ける



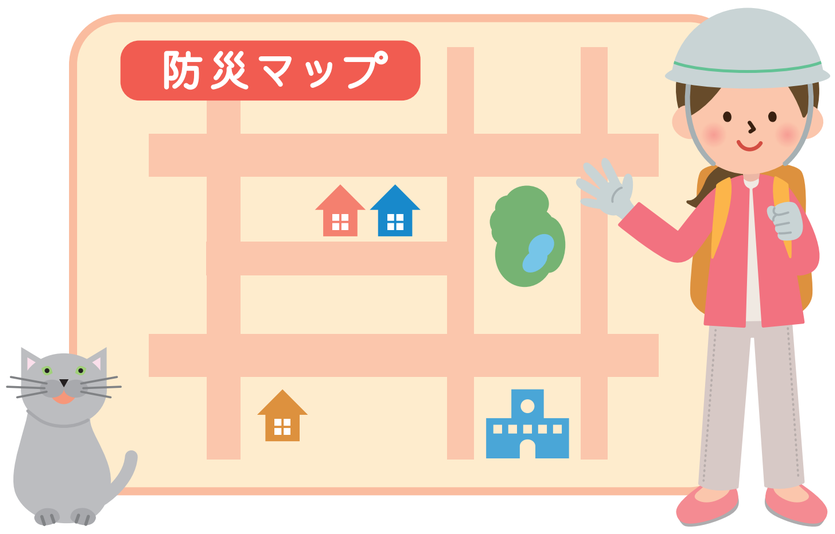
□ケージ、サークルは床に平置きして、壁に固定
□高いところへ置く場合は滑り止めなどの転倒防止対策を

狂犬病予防やワクチン接種、ノミ・ダニの対策などを普段からしっかり行いましょう、また、不妊去勢手術をしておくことで、避難所で他のペットと過ごす際のストレスを減らすことができます。

災害時に慌てないよう、家族で連絡の取り方や避難先、留守中の対応について話し合っておきましょう。また、いざという時に助け合えるよう、ご近所の方やペット仲間とも防災について日頃から話しておくことが大切です。

防災マップなどを確認し、避難場所までの経路や所要時間、危険な場所などを確かめておきましょう。地域で行われる訓練に参加して、状況を確認しておきましょう。

栄区防災マップ▶



ペット用非常持出品を用意しよう

地域防災拠点には、ペット用品の備蓄はありません。
救援物資はすぐには届きません。5日分以上（できれば7日分以上）は
ペットフード、水、ペットシーツなどの用意をしておきましょう。

1 命や健康にかかわるもの

□ペットフード、水（最低5日分）
□ケージやキャリーバッグ
□予備の首輪、リード（伸びないもの）

ローリングストックがおすすめ

2 飼い主やペットの情報

□ペット手帳
（飼い主と一緒に写っている写真、飼い主の連絡先、ペットのワクチン接種状況、健康状態、服用中の薬などを記入）

3 ペット用品など

□ペット用の食器
□ペットシーツ等のトイレ用品
□新聞紙
□タオル
□おもちゃ
□洗濯ネット（猫の保定に使用）

ペット自身にも、もしもの時の備えを！

1 飼い主がわかるものを身に着けよう

災害が起きると、混乱の中でペットと離れてしまうことがあります。
迷子になっても探し出せるよう、普段から鑑札や迷子札をつけ、マイクロチップを装着するなど、身元がわかる工夫をしておきましょう。

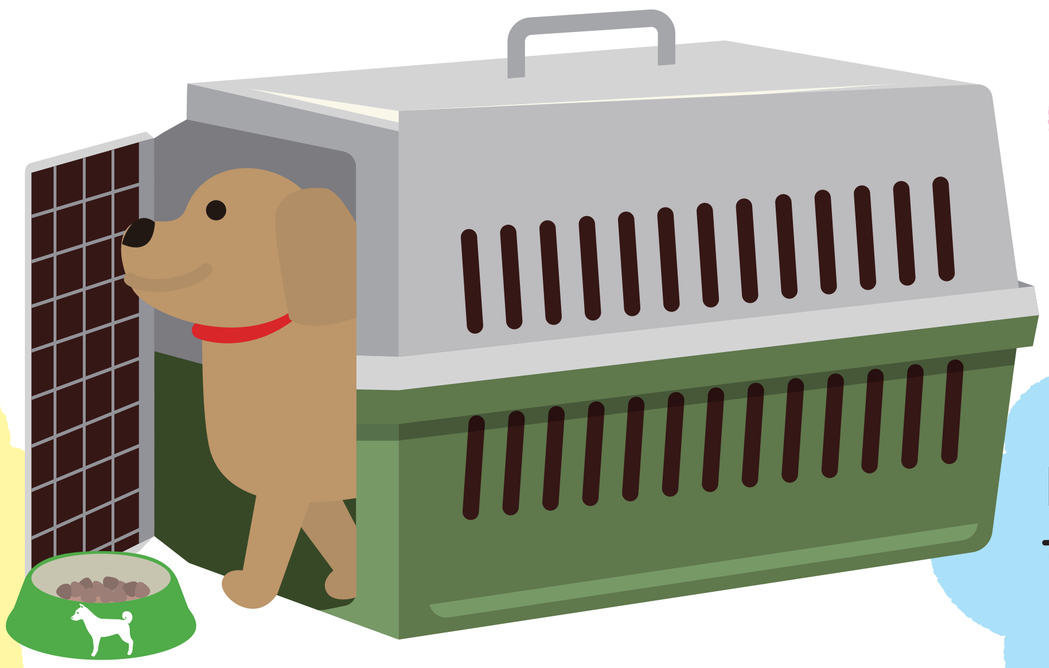
マイクロチップは外れることがなく安心
情報登録を忘れずに

環境省
「犬と猫のマイクロチップ情報登録」

2 しつけで社会性を身につけさせよう

避難所では、ペットはケージの中で過ごすことになります。
普段からケージに慣れておくことで、避難時もケージの中で落ち着いていられるようにしておきましょう。
日常生活でも、留守番や来客時、車での移動などの場面で役立ちます。

ケージの中で
ゴハンやおやつをあげて
慣らしていきます



中でリラックス
しているのを見つけたら
沢山ほめて
あげましょう

普段から休める
スペースとして
開放しておきます

「ハウス」の声かけで
すすんで入るように
なったら大成功！

普段からケージを安心できる場所として開放し、中にいるときに褒めたり、食事やおやつを与えたりして、慣らしておきましょう。

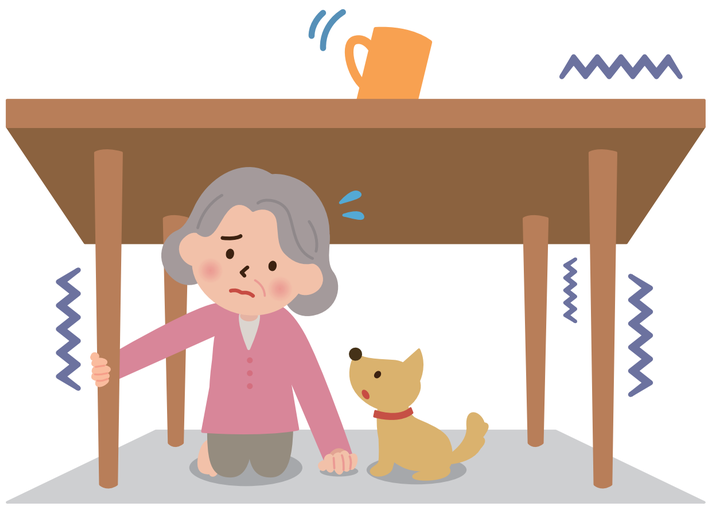
地震が発生したら、まず自分の身の安全を最優先に確保しましょう。

栄区 いたち川マスコット
タッチーくん

自宅や周囲の被害状況を確認し、家族やペットの安否を把握したうえで、
避難方法を判断しましょう。

ペットの安全のために

飼い主が落ち着いて、いつも通りに話しかけてあげることで、ペットも安心しやすくなります。
犬はすぐにリードをつけ、猫は慣れたケージ等に入れましょう。



自宅を不在にしていた場合…

安全が確保されてから、自宅に戻ってペットを連れて避難しましょう。

避難先・避難方法の判断

災害の状況に合わせて動けるよう、日頃から備えておくことが大切です。ペットと一緒に避難する際は、キャリーバッグに入れるか、リードでしっかりつないで安全を確保しましょう。

1 ペットと一緒に自宅で避難（在宅避難）
自宅の被害が軽微な場合は、地域防災拠点で情報や支援物資を受け取りながら、自宅で避難生活を続けます。

2 ペットを預けて避難
事前に確保しておいた一時的な預け先（親戚、知人、動物病院、民間施設など）にペットを預け、飼い主は地域防災拠点で避難生活を送ります。

3 ペットと一緒に避難（同行避難）
自宅での飼育が難しく、預け先も確保できない場合は、ペットを連れて地域防災拠点へ同行避難します。

ペット同行避難とは？

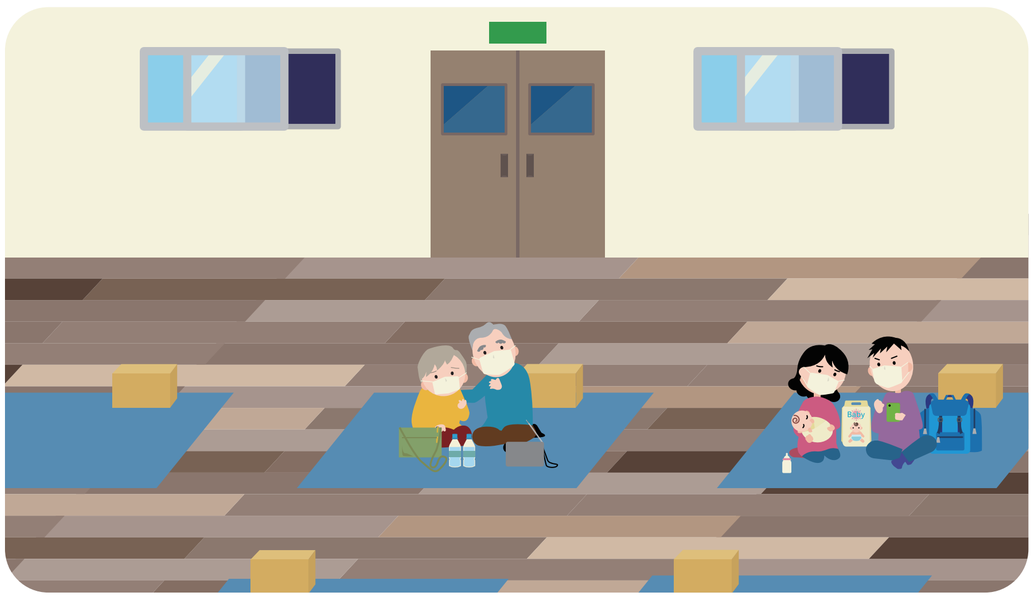
避難行動を示す言葉であり、避難所でペットと人が同室で過ごすことではありません。

地域防災拠点へのペット同行避難について

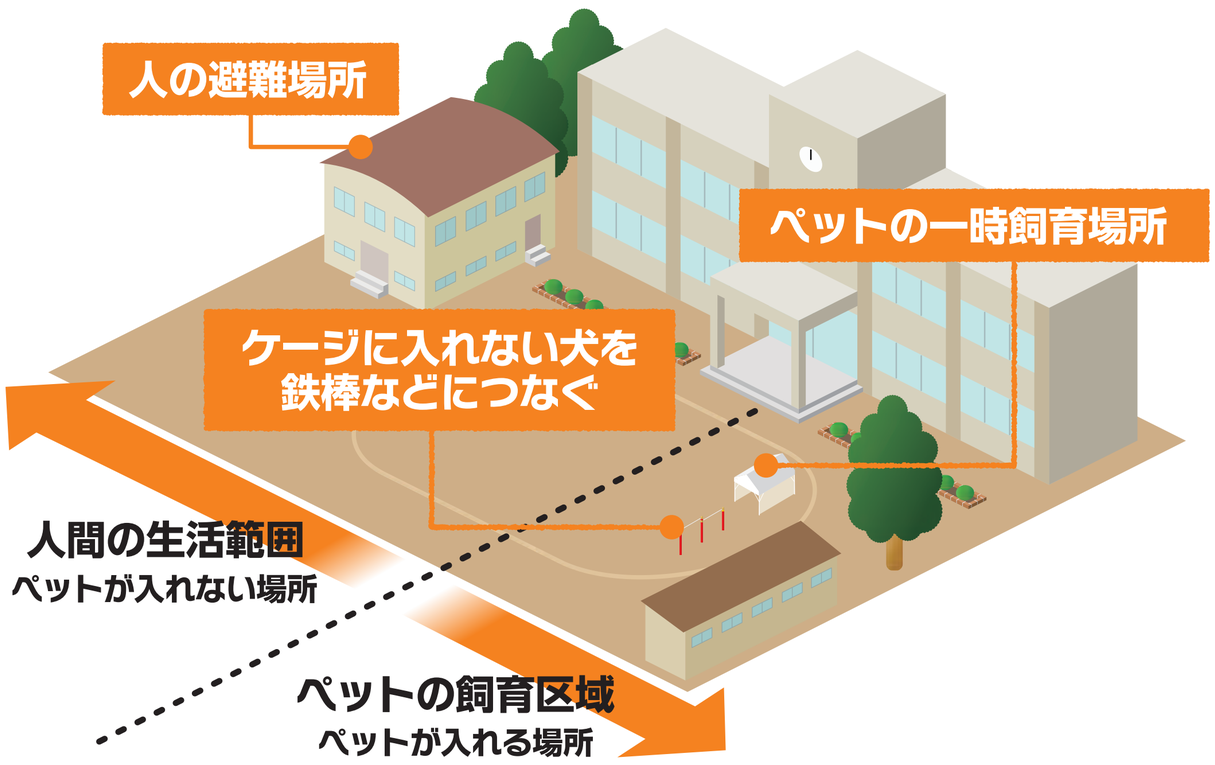
地域防災拠点では、たくさんの人が一緒に避難生活をしています。
動物が苦手な人やアレルギーのある人もいるため、飼い主はいつも以上に周りへの気配りが必要です。
ペットには首輪に鑑札や迷子札などを付け、設定された場所（一時飼育場所）でルールを守り、飼い主同士が協力して管理を行います。

地域防災拠点とは？

市内で震度5強以上の地震発生時に開設します。
自宅で生活ができなくなってしまった人が避難生活を送ったり、在宅被災者が物資や情報を入手したりする場所です。



地域防災拠点での生活



ペットは一時飼育場所で飼育します

体育館や居室内にはペットを連れて入ることができません。
ペットはあらかじめ決められた一時飼育場所でケージに入れて飼育します。ケージに入らない場合は支柱などにしっかりとつなぎ、安全に飼育できるようにしましょう。

ペットはケージで飼育します

タオルや段ボールなどで
仕切りや目隠しをします。

ペットの飼育・管理は、飼い主自身が責任を持って行います

地域防災拠点にペットを連れた避難者が来た場合の最初の避難受付も、飼い主が協力して行っていくこととなります。
ペット同行避難時用スターターキットなどを用いて、ペット同行避難者の受付体制を整えましょう。

ペット同行避難時用スターターキットとは?

箱をあけて手順書に沿って行動するとペット同行避難者の受付体制ができるようになっています。
箱にはペット同行避難者の受付や一時飼育場所を開設・運営する際に使う物品(手順書、各種様式、ロープ、養生テープ、ブルーシート、結束バンド、文具、ぞうきん、ポリ袋など)が入っています。

栄区 いたち川マスコット
タッチーくん

拠点訓練などの機会をとらえ、飼い主同士で「飼い主の会(仮称)」を組織し、**平時から飼育ルールなどについて拠点運営委員と検討を行っていきましょう。**
動物愛護センターのホームページに「ペットの一時飼育場所開設運営マニュアル(案)」掲載しています。これを参考に、拠点運営委員会と相談しながら、地域の実情に合ったマニュアルを事前に作成しておきましょう。

災害時のペット対策（動物愛護センター）▶